

音楽科シラバス（第3学年）

1 基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指して

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・歌唱曲の作詞者・作曲者、時代背景など要素の学習を通して、音楽の基礎基本を身に付けさせます。・歌唱においては、楽譜（旋律）からの音とり活動を充実させ、読譜力を身につけさせます。・鑑賞では、作曲した音楽家の時代や楽曲構成の理解、DVDの鑑賞により音楽的感性の感受と音楽的要素を取り入れた文章による表現を行います。 |
|--|---|

歌唱	豊かな声量、美しい声で歌うことが一番大事なので、積極的に声を出すことを目指させます。音楽の授業やいろいろな行事で歌うときには声量があれば高評価につながります。歌のテストでは声量・響き・美しさに一番の比重をおきます。
器楽	主にアルトリコーダーの個人練習が中心となります。一生懸命取り組ませます。楽器の演奏は努力しないと上達しませんので、時間いっぱい練習させます。
鑑賞	DVDやCD等の音楽を鑑賞して感じたことの感想記入や、教科書を使い鑑賞する曲の楽曲背景や音楽史などを勉強します。鑑賞の感想を書く場合は「凄かった」とか「良かった」の一言で感想を書いたり、述べたりではなく、音楽の諸要素を言葉で表現できるように、自分の言葉できちんと説明できるような学習をさせます。

2 思考力・判断力・表現力その他の能力の育成を目指して

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・こころから音楽を楽しむ授業（わくわく・どきどき・生き生き）を展開するとともに、特に鑑賞では書くことで思考力を高めさせます。・音楽科では、生徒の発達段階や題材の特質に応じて、信頼性・客観性のある絶対評価の充実を図り、指導と評価の一体化された活動を展開することで表現力やその他の技能の向上を図ります。 |
|--|--|

3 学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指して

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・学習内容に関する興味・関心を把握し、題材における導入や展開の工夫（デジタル教科書の使用）、生徒の実態に合わせた学習の展開をします。・授業六束から、正しい服装を整え、聴くときは聴く、歌うときは正しい姿勢で歌わせ、積極的に歌唱やリコーダーを練習し、表現できるようにします。 |
|--|--|

4 持ち物

授業の時には「音楽の教科書」「器楽の教科書」「コーラスフェスティバル」「リコーダー」「筆記用具」「音楽のハーモニー」を持って来て下さい。尚、これらは音楽用のバッグにまとめて入れ、ロッカー等に置いたままで構いません。忘れ物をした場合は減点となりますので注意してください。また、各学期末には音楽の筆記試験、実技試験もあるので試験前には持ち帰って勉強して下さい。

5 実技及び定期テストについて

歌唱	声の大きさ・美しさ、音程、音楽の表情、姿勢・口のあけ方等を見ます。声の大きさ・美しさに一番の比重をおきます。但しテストの時だけ大きな声を出しても高得点にはなりません。日々の取り組みが大切です。
器楽	美しい音色でなめらかに演奏できているか、曲の終わりまでで演奏できたか、指使いは正しいか、姿勢などをみます。
鑑賞	鑑賞の授業後の感想用紙及び各学期の期末試験で勉強した知識の確認を行います。

6 評価の観点と評価規準

① 主体的に学習に取り組む態度

授業への積極的な取り組みや授業態度を中心に評価します。歌唱や器楽は得意・不得意に関係なく大きく美しい声で歌い自分の力で音楽を表現することが大切です。自ら進んで練習に取り組む楽曲に向き合うことも必要になります。

ただ授業に参加しているだけで声や演奏の音が聞こえない人、練習を怠る人、私語の多い人、忘れ物の多い人は主体的に学習に取り組む態度がないものと判断します。生徒手帳及び本校生活のきまりに準じた服装で授業に臨むこととします。

儀式に関わる科目でもありますので服装や作法の育成も必要となります。服装が乱れている場合、主体的に学習に取り組む態度がないものと判断します。

授業に参加するにあたって何も持ってこなかったり、教科書やリコーダー等の忘れが多かったりする人は、主体的に学習に取り組む態度がないものと判断し、評価をCとします。

【主な内容】授業態度、提出物の状況、忘れ物の有無、積極的に歌い演奏しているか等。

その他① 実技や鑑賞の試験が良い成績であっても、授業妨害（他の生徒への迷惑行為及び学習権の侵害など）があり、指導をしても改善がない場合は、評価をCとし評定を1とすることもあります。

その他② 授業態度、実技試験や筆記試験の結果によっては授業出席日数が十分であっても評定は1や2となります。

② 思考・判断・表現

歌唱（合唱・斉唱・独唱）、器楽演奏の実技試験を行い、その結果で評価します。実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価が出来ない為評価はCとします。

【主な内容】強弱や歌詞など楽曲に応じた表現ができていないか。曲趣に応じた音楽的身体表現。

③ 知識・技能

その時に勉強している楽曲に関する知識が必要であると考えます。各学期末に行う定期試験の結果を中心に評価します。また、鑑賞の授業中に居眠り、私語の多い人は筆記試験の点数が規準に達していても、音楽を鑑賞する気がないものと判断し評価をCとします。

歌唱（合唱・斉唱・独唱）、器楽演奏の実技試験を行い、その結果で評価します。実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価ができないため評価はCとします。

【主な内容】期末試験の得点、鑑賞の取り組み状況など。

正しい音程で歌えているか、リコーダーは正しい指使いができていないか、タンギングができていないか。姿勢など。

7 評定の主な例

【観点別学習状況の評価】

十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの：A○

十分満足できると判断されるもの：A

おおむね満足できると判断されるもの：B

努力を要すると判断されるもの：C○

一層努力を要すると判断されるもの：C

※評定（5段階）は、各観点の評価（A○=5点、A=4点、B=3点、C○=2点、C=1点）をもとに算出します。評価と評定の関連は、下表（例）のとおりです。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
^{マル} A○ ^{マル} A○ ^{マル} A○	15点	^{マル} A○ ^{マル} A○ A	14点			5
^{マル} A○ A A	13点	A A A	12点	^{マル} A○ B B	11点	4
A B B	10点	B B B	9点	B B ^{マル} C○	8点	3
B ^{マル} C○ ^{マル} C○	7点	^{マル} C○ ^{マル} C○ ^{マル} C○	6点	^{マル} C○ ^{マル} C○ C	5点	2
^{マル} C○ C C	4点	C C C	3点			1

8 学習計画

	題材	教材	主な到達目標
1 学期	日本の歌を 味わう	「花」(歌唱)	音程やリズムを正確に捉え、歌詞と旋律が一体となった美しさを味わう。歌詞と旋律が一体となった美しさを味わい、日本の歌曲に親しませる。
	音楽の特徴や 背景を理解し てその魅力を 味わう	「ボレロ」	曲のよさや美しさを味わいながら聴き、曲の魅力とその根拠についてプレゼンテーションできる。雅楽の歴史や使用されている楽器について知り、特徴を味わって聴くことができる。
	曲想を感じて 器楽演奏しよ う	「ラヴァーズ コンチェルト」	アルトリコーダーの基礎・基本を習得し、二重奏で演奏する。
	合唱の響きを 味わいながら 歌おう	合唱コンク ール学年合唱	曲のしくみを理解し、正確でいいいな音取りをする。鑑賞で学習した楽曲背景を合唱に生かし、曲趣に応じた表現をする。
	混声合唱の美 しいハーモニ ーで歌おう	「合唱コンク ールクラスの 選曲・決定」	合唱コンクールへの取り組みを通して、様々な合唱曲を聴くことで表現力と音楽を愛好する心情を育てる。
2 学期	詩と旋律 合唱の響きを 味わおう	「学年合唱曲」 「クラス合唱 曲」	声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱する能力を育てる。合唱コンクールへの参加を通して、色々な合唱曲に取り組み表現力と合唱を愛好する心情を育てる。
	作曲者の思い を感じとりな がら、音楽を味 わう	「ブルタバ」	曲想と音楽の特徴との関わりに注目しながら味わって聴くことができる。作曲者が記した標題や解説、当時の時代背景から、作品に込められた思いを感じ取る。
	詩や曲の背景 を理解して歌 おう	「花の街」	詩に込められた作詞者の思いを理解し、生かして歌うことによって日本の歌の美しさを感じ取り、親しむ。
3 学期	音楽のよさを 味わおう	「ポピュラー 音楽」	世界のポピュラー音楽を聴いて、音楽の特徴とその背景となる文化を関連付けて感じ取る。
	卒業式に向け て	卒業式歌 「旅立ちの日に」 学年合唱	中学校生活を修了するにあたり、総まとめとして、音楽的・技術的にも最高の物を合唱で表現する。

生徒一人一人にも、最初の授業にほぼ同内容のガイダンスを行っております。